



人間に耳があるのはどうして

耳は、生き物にとって大切な情報収集器官

わたしたちは、道を歩いているとき、向こうから自動車や自転車などが走ってくると、それを目で確かめ、さけることができます。また、道の曲がり角などで、見えない方向から自動車や自転車などが走ってきても、音でそれを知り、さけることができます。

このように、わたしたちは、目で物を見たり、耳で音を聞いたりして、自分のまわりで起こっているできごとや、ようすを知ることができ、判断して、正しい行動をすることができるのです。そして、目や耳などの感覚器は、わたしたち人間だけでなく、生き物が生きていくうえで、なくてはならない、大切な情報を集めるための器官なのです。

特に、耳（聴覚器）は、目では見えない、遠くはなれたところで起こっていることも、音で知ることができ、しかも、方角や距離まで判断できるのです。

人間以外の動物の場合は

耳は哺乳動物（乳を飲んで育つ動物）では、嗅覚（においを感じる）こととならんで、重要な、情報を集めるための器官（情報収集器官）であるといわれています。

それは、一部の動物をのぞき、目が近視だったり、色盲だったりする動物が多く、まわりのようすを知るためには、聴覚器や嗅覚器の助けが必要だからです。

特に、ネコやサルの仲間のような、後ろが見えない動物にとっては、後ろからの音の情報を得ることは、生きてゆくうえでとても重要になっているのです。（監修・保志 宏）

